

## 四谷の

# 千枚田だより



第 54 号

千枚田高みにつれて雪の舞う  
十王堂には閻魔様 四谷柳二

千枚田雪の来そうな底冷えに  
十王堂の閻魔様見る

もらおうというの  
だろっか。  
最後に残った、日本  
らしい生活文化の  
型である棚田を守  
ることは、日本人に

とつても、世界から日本を訪れる  
人々にとつても、いまやきわめて大  
切な生活文化の生きている遺産で  
あると思う。  
[2008/01/28]  
ふるさときゃらばん・石塚克彦  
(全国棚田(千枚田)連絡協議会HPから)

### 観光資源として、

### なぜ、いま棚田か

日本という国は、いつの間にか経済効率優先の風潮に席捲され、各地の風土と共にあった伝統やその土地ならではの生活文化や景観といったものが破壊されてしまった。

日本を代表する歴史的空間である京都でさえ、駅前には現代的なタワーが建ち、高層ビルのホテルの谷間に古都を探さねばならない。

田園空間もまた同様であり、日本中の田畑もまた機械化し生産効率を上げるため耕地は大改造された。生活様式もまた変化し、居住などにも現代的なアメリカ型の合理性を求めたツーバイフォーに建てかえられ、地域性のある農村風景は消え、日本中どこに行っても同じ景観しか見られなくなってしまうということができる。

そうした中で、山間部の傾斜地にある棚田だけがひびくにも生産効率が割合わないため、経済性一辺倒の

開発からまぬがれ、自然と共生して来た日本人の生活のありよう、風土と一体化した生産の姿を今に残してくれている。日本人にとって棚田の存在意味がそこにあると思う。それをわれわれは今、日本人の原風景と感じ、大切にしようと考えているのである。

継続した歴史や伝統を持つヨーロッパの国々・フランスやドイツやイギリスなどでは今もなお、経済効率に逆らっても古くからの田園空間を大切にしている。それもまた文化であり、それを愛するため世界中から多くの観光客が訪ねるのである。グリーンツーリズムの流れは、残念ながらヨーロッパからやって来た。日本は、すぐれた風土に合った伝統的生活文化を持ちながら、歴史の浅いアメリカに習って独自性をないがしろにし経済だけを求めてきた。観光立国などと言いながらも、見てもらうべき生活文化を破壊してしまつたら、何を観て、何を味わって



## 全国棚田オーナー

棚田オーナー制度は、棚田という地域の条件を活かし、都市住民等の参加により、地域の農地等を守っていく仕組みとして、全国各地百ヶ所以上で実施されています。

農業体験・交流型 農業体験に重きがおかれ、田植、草刈、稲刈などの来訪が二～三回。

農業体験・飯米確保型 農業体験よりむしろ、一家の飯米を確保することが主目的。田植、草取、稲刈などの来訪は二～三回。

作業参加・交流型 来訪の回数や作業の種類が増え、農業体験から一歩進んだ類型。来訪の回数は田起、田植、草刈、稲刈、脱穀などの作業に年四回以上参加。

就業・交流型 来訪頻度が高くとも高く、年十回以上。作業には農機具を使用。

保全・支援型 基本的に、金銭的な支援を行い、オーナー田の管理費や保存会の組織の運営費に割りあてる。等々である。

## 版画づくり

連谷小学校では毎年版画づくりをしています。

サミット開催時の全国棚田(千枚田)連絡協議会発行「ライステラス」の表紙にも取り上げられ、全国から訪れた棚田関係者に感銘を与えま

した。

今年も二月八日(金)、午後からの授業で版画づくりに挑戦。その様子をテレビ愛知が取材しました。

すり込みは十六日に行いますが、子ども達はどんな作品に仕上がるかワクワクどきどきの事でしょう。



ふるさと水と土基金

## 全国研修会

二月十四日、十五日、静岡県御殿場市(国立中央青少年交流の家)で全国から四十三名が研修を受けます。研修目的「都市住民や子供達が参加する自然体験活動実施のために必要な基礎知識を習得する。また、中

山間地域の保全や地域活性化が図られるようなプログラムについて考える。」

プログラム  
「実習」目的の共有化、対象となる参加者を知る、自然体験活動の理解

「講義」自然と人、社会、文化のかわり、自然体験活動の理念  
「実習」自然体験活動の基礎技術、自然体験活動の指導法

「講義」プログラム作りの基礎知識  
この研修には愛知県ふるさと指導員・自然体験活動指導者小山舜二と新たに設楽町名倉地区営農推進協議会役員三名が受講します。

## 棚田米

鞍掛山の恵まれた湧き水と天日乾燥の棚田米「まぼろしの米ミネアサヒ」が豊橋市の山田米穀店で販売されることになりました。

## みんなの奥三河

### アンケート集計結果

良かった点

・門松作りが親子で楽しめた。作品を玄関に飾ることができ、良かった。

・地元の方の説明がよかった。

千枚田への愛情に溢れていた。

・親子で初めての田植え体験はとて

もいい思い出です。

・田植え体験でき、稲づくりのお話が聞け良かった。子供は竹での遊び、道具作り、門松作りをとても楽しん

でいた。

良くなかった点

・参加者同士の交流、地域の方とのふれあいがなく、心の交流が欲しかった。

・梅の木のトゲが手に刺さった。

感じたこと、自由意見

・季節折々の心癒される自然の恵みにふれられてうれしかった。地元の方に感謝です。

・地元の人やさしさ、この二重奏が良い。

田んぼ跳び・子供がとても喜んだ。貴重な体験でした。

## げなげな囃

ほい、中国のギョウザはやあゝえらいこつただげなのん・わしやがの嫁にやつた娘はケチで「とろい」むんだでやあゝ、あつちの安いもんを買つちゃあチピンとつに食わせとりやあせんか心配でのん・そんなこたあ心配せんていはずらあ、どつちみち千枚田の米や野菜をええ加減運んどるだらにい・そうだのん、田んぼにやあタニシやドジョウが生きてるだで、何んちゅつたつて、こここの米や野菜を食つとりやあ、安気だでのんほい・

行 平成二十年二月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文責 小山舜二